

開成の杜

第81号 ●2009年12月17日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口富左



図書館全景(国道49号線側から)

(撮影 山口郁生)

“老いのたわごと”



学園長 関口 富左

秋の日は毎日に短く、午後も忙しい終日にさせられる一方、秋の日和は心おだやかな一時が得られて、忙しく過す毎日がホッと扱われる。

たまさか、おだやかさに心なやみもあるが、それは一時である。

一年の連きは、秋の暮にいとど迫りくるようで、物想う心地に追いやられて心寂しい。若い時は、迫る時より秋そのものの日和を、楽しむ時をもつ。どこに行こうか、何をしようか、などなど。

神社の杜と空の曇りが身近に迫るようで、ああ、秋!! あき!! と、心が静かさを誘い込むようで、落ち着きと、それでいて不安ともつかない思いに誘われる。

暮の確かさと、若者達の力強い足並。老いの不安定の歩み等々、帰路の道は多様となる。

私は、開成の地に住みついて六十数年。季節の景色遠望とはならず、近景の状況に包まれて、自ずから不確かな心身を慰められて、平安な状態を保っている。

年は老いくつ!! と、開かれもしないのに自ら数を出しても、その先によき案なども生まれず、一応心の抱えを他に転換しては、自己弁護ならぬ自己援助になって、目先の安定感を急ぎ求める。

一方、目を校舎等に向けると、

学生達の後姿それ自体だけでも元氣いっぱい、自信満々。そこに輝きと勢いと、動的対応が発揮されていて見事であり、頼りになる。

かつては、山を見れば山へ。山の高さを聞けば、高いほど登りたい!! 等。あの元氣はどこへ行ってしまったのだろうか。

「若い時は二度とない、考えてみなさんしょ!!」などと、中年の人に言われて、何か不安や不満が心をよぎった時があったことを思い出す。

日は昇り、沈み、幾度繰り返されたか。数えることが出来ない位になると、妙に当惑が懐かしく、あの若さはどこに消滅してしまっただのかと、思いはわけもなく振り返り、新たな求め方を考える。

目下九十数歳…。でも、私の心の中には、まだ元氣だった時のことが甦り、あの山、あの峰、あの岩場と、思い出は尽きない。

若い時をいくら思い出しても、如何ともなしがたい。静かに時を楽しむことを想い、我身を庇うことしかない。

でも、残された心を労わり、少しでも長持ちさせて、今を大切に扱わねばと念じている。

突然、学生達の澄みやかな歓声が響く。かつて私もあの声で賑やかな時をもち、時には注意されたりの日が甦る。

若さの美しい元氣溢れている笑顔に包まれて、満足な思いを得ている日々。感謝の思いと頼もしい安心感とを得て、学園の元氣を、発展を、心静かに祈る。

(日21・12・7記)

エコ大学ランキング 私立大学の部で全国二位に！

全国の大学が取り組む環境対策を点検した「第一回エコ大学ランキング」私立大学の部で本学が二位に選ばれた。「自然を凝視して新たな学を」を理念に掲げる本学園全体での取り組みが高く評価されたもの。

このランキングはエコリーグ(全国青年環境連盟)を中心としたCampus Climate Challengeの主催で今年初めて実施された。全国三百三十四校の大学の環境対策担当者アンケート、回答のあった百七校の取り組みを点検して評価された。本学園では「全学挙げて環境保

全に「取り組み」方針の基に大学、短大、附属高校、幼稚園が一体となり、環境教育に力を入れている。

創立六十周年を記念して作られた屋上菜園では、学生が野菜や陸稲などの栽培、収穫などを体験し、ヒートアイランド現象を防いでいる。学内には、古紙やビン、プラスチックなどの回収ボックスを設置し、分別とリサイクルを徹底。食堂や調理実習などで排出される生ゴミなども学内に設置した処理機ですべて堆肥にし、磐梯熱海の学校林や屋上菜園などで再利用している。

本学園は環境省が推進する(財)地球環境戦略機関の「エコアクション

21」の認定を平成十八年に教育機関で最初に取得した。

今年六月には文部科学省の「既存学校施設における環境対策推進支援授業」のモデル校として指定を受けている。

学園の環境対策を担当する緑川洋一管理部長は「これからも学園全体での取り組みを継続、環境保護意識の向上を図ります」と話している。



ヒートアイランド現象を防ぐ屋上菜園

郡山女子大学お弁当発売 県・セブン・イレブン・ジャパンと開発

大学家政学部食物栄養学科の学生がセブン・イレブン・ジャパンと県内の農産品を利用した弁当やおにぎり、スイーツなど四品を共同開発した。十月二十三日から十一月八日まで県内セブン・イレブン三百七十七店で発売された。

商品開発は、県とセブン・イレブンの協力で「地域活性化包括連携協定」の一環事業として行われ、本学の学生がアイデアを出し商品化したもの。

三十、四十代の「働き盛りのお父さん」に食べてほしいと血糖値を下げる効果がある天栄村のヤーコンをきんぴらに使った「きんぴらきんぴら」(五百八十円)、「会津地鶏の照焼」ときのこのおにぎり(五百五十円)、「紅葉の磐梯山をイメージした」会津産かぼちゃのモンブランプリ



弁当を共同開発した食物栄養学科の学生たち



お弁当の担当を代表して挨拶する黒岩香香さん



握手を交わす関口理事長と佐藤市長(右)

署名し、署名した。

本宮市民元いきいき応援プラザ
事業連携協定締結式
学校法人郡山開成学園・本宮市

●合計十九万個発売
セブン・イレブンによると期間中の四アイテム(きんぴらきんぴら、会津地鶏の照焼ときのこのおにぎり、会津産かぼちゃのモンブランプリ、プリンとコーヒゼリー)のよ

子育て支援で 本宮市と協定結ぶ

短大・幼児教育学科生を派遣

本学と本宮市による「本宮市民元いきいき応援プラザ事業連携協定締結式」が十月二十六日、本宮市の同プラザで行われた。

本学短期大学部幼児教育学科の学生が月一回同プラザで、実習や体験学習を兼ねて子どもと紙芝居や絵本の読み聞かせ、ゲームや体操などを一緒に遊んで楽しむ。

今後、介護、食生活、文化など多くの分野で協力し、連携を強化する。協定機関は来年の三月三十一日まで。

式には、二十人が出席。佐藤嘉重市長が「学園の協力を感謝。子育て支援の充実を図ってほしい」と、関口修理事長が「大学での経験や知識を地元の実践に役立てたい」と挨拶した。

関口理事長と佐藤市長が協定書に署名し、署名した。

平成二十二年度入学者選抜始まる

が五十点に変更された。

公募推薦生Ⅱ期、特別生Ⅱ期の選抜は大学が十二月五日、短期大学部が五日と六日の二日間の選抜となった。この後、一般生Ⅰ期が年明けの一月七日から願書受付を開始して一月二十五日に締め切る。選抜日は短大が二月一日、大学が二月二日。続く一般生Ⅱ期は二月十五日から受け付ける。

並行して大学院、大学三年編入、短期大学部文化専攻の選抜も行なう。大学三年編入は人間生活学科と食物栄養学科で各々十名、専攻科は二十名を募集している。問い合わせは入学事務部まで。

教師と学生の交流を図る 裏磐梯で高原学校

—大学・短大—

二十一年度の高原学校は、秋本番の裏磐梯で開催された。裏磐梯ロイヤルホテルでの一泊二日の研修は、教師と学生が教室を離れて交流を深めると同時に、後期の学生生活をより一層充実させるためのものとして毎年行われている。

十月七日から三週に分かれた大学と短大の学生五百二十人が参加した。開校式では、副学長の山田幸二教授が「社会に向けて」と題して講話した。

山田副学長はこの中で「現代の社会は少子高齢化が進み人生八十年の長寿社会となり、先行き不透明になった。これから健康で豊かな生活を営むためには、精神的疲労や生活習慣病を克服し、思いやりのある豊かな人間性を形成しつつ、健全なる生活を維持していかなくてはならない」と述べた。

続いて、本学が進める教育は建学の精神である「尊敬・責任・自由」を



高原学校会場前にて

優秀賞に八巻さん

『日本の思想家と私』作文コンクール

日本思想学習研究会(本部・東京都)の主催で初めて開催された「日本の思想家と私」作文コンテストで、附属高校三年八巻加奈子さんの「理想の教育者・吉田松陰」が優秀賞に選ばれた。このほかにも三年の藤村知さん、小林沙恵子さん、佐々木真以香さん、影山知子さんの四人が佳作に入選した。福沢諭吉、沢田美喜、坂口安吾などの江戸から昭和時代の思想家を題材にして、それぞれの生き方や考え方を取り上げ、自分にとってどのような影響を与えたかを論じたもの。

八巻さんは「今回の受賞を機に吉田松陰のような教育者をめざすという将来の目標ができた。これを励みに努力したい」と話した。藤村さんからも「物事に積極的に取り組み、一生懸命生きる大切さを学んだ」「世界から差別をなくすために何が自分のできるかを考える機会となった」といった声が上がった。

「た」といった声が上がった。

今回は三年生二十七人が倫理授業の一環として参加した。指導に当たった大塚啓一郎



(右から)小林さん、藤村さん、八巻さん、佐々木さん、影山さん、大塚講師

矢吹さん奨励賞受賞

第五十四回文部科学大臣杯全国青年弁論大会で附属高校青年弁論大会が十一月二十二日、さいたま市浦和コミュニティセンターで行われ、附属高校三年の矢吹友美さんが奨励賞を受賞した。



不登校などの経験を発表した矢吹さん

同大会の予選会は実施されなかったが、主催の日本弁論連盟の書類審査をみごとに通過し、全国大会出場を決めた。大会には全国から予選を勝ち抜いた四十人が参加。一人七分の時間内で論旨と表現が審査対象となった。

矢吹さんは、同第四十五回大会で優勝経験のある担任の青木麗葉先生(千葉県出身)と二人三脚で取り組み、「再スタート」と題して自身の不登校だった経験を踏まえ、「自分は家族や友人、多くの人に支えられて立ち直れた。人は変われるということ」を伝えることができ、自分で納得できる弁論だったと述べた。

就職現況報告

就職部

リーマンショックに端を発した世界的景気後退のなか、平成二十一年三月に卒業した本学学生の就職率は、大学九三%、短期大学部八六%でした。

さて今年度、平成二十二年三月卒業予定の学生に対する本学への求人数を見ても、現時点で前年度と比べ三割近く減っており、就職環境は一変しております。まさに一九九〇年代の就職氷河期を連想させます。このような状況において学生が就職内定を得るためには、なんといつても学生自身が就職力(就職できる力)を高めていかなければなりません。そのために就職部として



就職対策セミナー講座

さまざまな支援事業を行っております。そのいくつかを紹介すると、就職ガイダンス(年五回開催)、就職活動の指針となるよう、必要なことを説明・指導する「公務員試験等対策講座(年三回開催約五十時間)」「公務員及び民間企業の筆記試験対策」として基礎教養の充実を図る講座、就職対策講座(十五講座計二十三時間)希望者を対象に就職活動に際してきめ細やかな説明・指導をする無料の講座、就職模擬試験(年二回実施)実際の筆記試験を想定し、民間の一般常識問題及び公務員の教養問題に挑戦する)などがあります。

特集 学びの旅

附属高校修学旅行

本校は、10月中旬、第2学年の修学旅行(4泊5日)を行った。台湾、沖縄、関西の3コースに分かれての体験学習。歴史や文化を学び各人一回り大きくなって戻ってきた。



中華料理の実習を



広島平和記念公園にて



片町商店街にて



宮野島・ホテルのビーチで

●歴史と食に触れる「台湾」
私たち美術科・食料科は、台湾で各科の特性に合わせて研修して参りました。

美術科は、台湾の史跡などを巡りながらスケッチし、食料科は、中華料理の実習を中心に学習してきました。多くの人が初の海外経験で、心配や不安も多々ありましたが、みんな

●日本の美しい文化・歴史を学ぶ旅
私たち人文系コース音楽科は、広島、関西方面へ行ってきました。日本の美しい文化や歴史を直接肌で感じ、学びました。

広島では原爆ドームを見学し、被爆者の方のお話を聞いて戦争の悲惨さに自然と涙が溢れ、世界から戦争や核がなくなるとはいいと心から思

●沖縄の文化・平和から学んだこと
修学旅行を通してたくさんの方々と交流がありました。平和学習では、実際に戦争を体験した方々の話を聞いて、改めて戦争の恐ろしさについて深く考えさせられました。

ガマ迫り体験では、暗い足場の悪い洞窟を歩き、ひめゆり隊がこの場でケガ人たちを看病していたかと思う

●沖縄の美しさと平和の尊さ
私たち総合学芸コースは、自然あふれる亜熱帯、沖縄へ行ってきました。「琉球」の文化を体感し、美しいサンゴ礁の海や雄大なマングローブの森で動植物を観察するなど、普段私たちが見ることや感じることのできないような沖縄特有の文化・自然を存分に楽しむことができました。

なと協力し合って乗り越えることができました。四泊五日の短期間で、異国の風土文化に触れて多くのことを学び、考えることができました。貴重な経験をさせていただき、いまはただ、すばらしい機会を与えていただいたことに感謝の気持ちで一杯です。

(食料科 小泉千晶)

いきました。京都では、各所で舞妓体験やオルゴール作り、金閣寺・銀閣寺を見学するなど、さまざまなものを経験、吸収した充実した研修となりました。コース別に行く修学旅行は今年で最後です。各地で人の温かさに触れることができ、大満足の五日間でした。

(普通科人文系コース 佐藤 優)

と、とても切なくなりました。また、たくさんの方々の施設を見学し、今までできなかった方言や歴史を学ぶことができました。今回の修学旅行では、先生方や添乗員の方に大変お世話になりました。感謝しています。この旅行で学んだことを今後の学校生活に活かしていきたいと思っています。

(スポーツ健康系コース 高橋和代)

また、平和学習を通して、沖縄には戦争によって多くの尊い命が失われたという、とても悲しい歴史があることも実感してきました。

この五日間で学んだことを心に刻み込み、これからの生活に役立てていきたいと思っています。

(普通科総合学芸コース 本田聡美)



今年も高学年でした

【食料科】
「とんぐり食堂」を開設。調理実習の成果を披露した食事は大好評。



ピアノ・弦楽合奏のアンサンブル



音楽・実技発表

【マーチングバンド部】
マーチングの美しさを、力強く伝えた。



力作が並ぶ展示会場



素早い理科

【生徒会・科学部】
ペットボトルを用いた噴水およびトルネードの実験。



身の回りの可憐な花々も紹介

【生徒会・華道部】
「花のある暮らし」。



生活芸術科2年 吉田 知加さん



よくできてるよ

【生活芸術科】
「ほくたち、わたしたちの作品展」好きな絵や想像画の数々といろいろな素材で制作した作品。



耳と目との真実勝負

【生徒会百人一首カルタ取り大会】
十三年目となる学年別クラス対抗戦。優勝は、一年生が一年一組、二年生が二年六組、三年生が音楽・美術。



学習の成果を発表

【生徒会書道部、芸術科】
授業での作品と部活動での作品を展示、その違いを見る。



リサイクルで作ったおもちゃを子どもにバザーで販売

【子どもたちのプレゼント】
リサイクルで作ったおもちゃを子どもバザーで販売。父母会からお寄せいただいた品々を大人バザーで販売。



取り組みの現状を説明

【環境委員会】
本学の取り組みがエコ大学ランキング二位に。



食肉の持ち帰った品々を販売

【同窓会(共催)】
大学短大高校の三同窓会が合同で企画した「同窓会館設立のためのバザー」。

特集 第63回 もみじ会

「自然を凝視めて新たな学を」
10月3日・4日開催

恒例のもみじ会が10月3日、4日の両日、学生・生徒・園児に同窓会や家族会の参加も得て、全学的に開催された。来賓や父兄、地域の方々が多数来学、今年の教育研究の成果と学園の姿を広く知ってもらうことができた。



ソプラノの独唱で日頃の成果を発表



広げようエッセイのつむぎ 楽しく遊びましょう



研究の成果をパネル展示

【大学院 人間生活学研究所】
「エコロジーと人間生活」。
人間生活学の理念を基に温暖化防止をめざし、生態系を維持、保全するため、人間生活のありかたについて研究発表。



衣生活領域では、衣服の着用、化粧などに関する「望まれる身だしなみ」について展示した

【家政学部 人間生活学専攻】
統一テーマ「今求められるQOLを考える」。
☆生活総合コース「女性の生活と仕事」☆福祉コース「高齢者の食生活を考える」☆建築デザインコース「今とめられている住まい方」について発表。



真剣に調理する学生たち

【レストランもみじ】
食物栄養学科と短大食物栄養専攻が合同で開設。調理実習、集団給食実習として地産の素材を多く取り入れた「松花堂弁当」が好評。



研究の成果を見入る来賓者

【家政学部 食物栄養学科】
「日本人の食生活について」。
食生活における問題点を明らかにし、参加者の意識行動変容に寄与する。

短期大学部

【家政科福祉情報専攻】
「新しい家庭生活を目指して」をテーマに手芸、染色、パソコンの実技講習を行い、手づくり菓子や手芸小物を販売した。

【生活芸術科】
グラフィックデザイン、絵画、彫刻、工芸、コンピュータグラフィック、近代詩文書、茶道(略盆点)等九部門で作品発表。

【茶道クラブ】
お客様にお茶の心を楽しんでいただきた。

【高年齢者招待会】
ケアハウスにお住まいの方々をご招待。敬老、福祉の精神を養う。

【船舶クラブ】
「着付け体験」浴衣、着てみませんか?」。

【文化学科】
「通過儀礼」節目チェンジ、再生。人生には様々な節目があり、それを通過することで新たな人生が始まり、その通過儀礼は時代、地域、集団によって異なり多様性を示している。

【ダンスクラブ】
「だだだDANCE」。
部に昇格して三年目。様々なジャンルを披露。

【モダンジャズ研究同好会】
「MOMJI・JAM」。
モダンジャズ研究会とフュージョン同好会の合同企画。

【モダンジャズ研究同好会】
「MOMJI・JAM」。
モダンジャズ研究会とフュージョン同好会の合同企画。

【茶道クラブ】
お客様にお茶の心を楽しんでいただきた。

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



イラスト/佐藤悦美

夏の暑さ

本田 先生

現在は二本松市の一部になっているが、阿武隈山系の中に東和町がある。この東和町は、東和町大会に参加した。このレースは七月の暑い日の開催であり、また、急な坂道の上下りのコースで有名になっている。

スタートすると、2kmくらいから上り坂になる。下を向いて必死に上っていく。途中、冷水シャワーなどがあるが、体温を下げてくれる汗の出方が半端じゃない。温度は二十九度はあった。水分は約1kmごとに給水所があり、必ず飲んだ。食べ物のバナナやスイカも出ているので、食べながら走った。汗が流れて靴下までグッショリだ。頭は帽子をかぶっているが、



東京マラソン2009

これもグッショリである。

坂道を上ったり下ったりしながら、折返し点に着く。帰りは下りが多いから比較的楽になる。しかし、しっかりと歩いている。水を飲みスイカを食べながら走った。すれ違う人も皆、汗まみれ、疲れた様子をしている。地獄坂を降りた後は下っていくのでスピードがつく。道端にはアジサイが咲いている。水分を補給してゴールを目指して走る。

やっとたどりついたゴール地点は人がごった返している。完走できた喜びで一杯だった。汗が流れるように流れた。水を浴びたように次から次へと流れ落ちた。生まれてから、これまでに一番汗が流れ落ちた気がした。しかし、爽やかでもあった。生まれてから、これまでに一番爽やかであったかもしれない。夏の日の一日であった。

(附属高等学校教諭)

絵を描くことについて

武田 千聖



写真

生活芸術科に入学してから様々な教科で作品制作に取り組んできましたが、なかでも油彩画にかけた時間が一番多かったように思います。

作品の大きさは様々ですが、この二年間でおそらくクラスの誰よりも多く描いています。

私は、あまり計画や下書きをせず、頭に浮かんだものを直接キャンパスの上に、落書きするように一気に描きながります。その間、形がどう崩れようが、色が変わろうが、とにかく満足するまで手を動かして続けます。

昔から童話やファンタジー小説ばかり読んでいた私は、楽しく明るく夢に溢れたものが大好きで、頭の中にはいつも不思議な世界が広がっています。そんな状態では、勉強も友人との会話も、上の空になってしまします。だから私は、頭に浮かぶものを、すべてキャンパスに描き写すのです。

私にとって絵画は「観て、感じる」ものであって理屈で考えるものではないです。脳を占領していた空想世界をキャンパスに描き写すことで、やっと学習や会話をする余裕が生まれてくるのです。

もし、この世の中に絵を描くという手段がなければ、夢ばかり見ている、ただの現実逃避しかできない人間であつたでしょう。絵を描くことはなによりも重要なことなのです。

(短期大学部生活芸術科二年)

自分自身と向き合うことの大切さ

菊地 明恵



写真

私は、附属高校入学後、迷うことなく弓道部に入部しました。弓道を始めたきっかけは、自分自身を鍛えたいとの思いからでした。「チームでの競技は必要ない」と思いついたまま一年の大半を過ごしま

した。そんな考え方の私でしたから弓道の技術も全くといいほど上達しませんでした。一時期退部も考えましたが、先輩方が引退した後、自分自身と向き合うことを決意して忘れないように心がけ、練習に取り組まれました。チームメイトの団結と協力があつて、新人戦において団体優勝することができ、さらに東日本大会への出場を果たす貴重な体験もできました。

今までの自分は、独り善がりの狭い見識の中で、物事を考え、それだけで自分だけで納得してしまっていた。自分がどんなに未熟だったかを弓道を通して知りえたことは、私にとって自分自身を見つめ直すきっかけとなつた。附属高校での三年間、学んだことはたくさんあります。卒業後は、さらに二年間、文化学科で好きな民俗学や考古学を学びながら、弓道は続けたいと考えています。これからも「自分自身と向き合う」ことを忘れずに成長していきたいと思っています。

(附属高等学校三年)

私の本棚

ヴァン・マーン著

『教育のトーン』

ゆみる出版

郡山女子大学短期大学部幼児教育学科

講師 郡司 賀透

冒頭から私事で恐縮だが、今春女の子を授かった。愛嬌を振りまくその姿は、親だけでなく周りの方々にも希望を与えている。

さて、親として私はどのような存在になれるのか。これまでになかった問いが生じた。そこで、書店の育児コーナーを探し回ってみた。しかし、これといったものは見つからなかった。

「雪は天からの手紙」この少しロマンチックなフレーズ、どこかで耳にしたことはありませんか。人口雪で有名な中谷宇吉郎博士の「雪」という著書の一節です。雪の結晶には上空のあらゆる環境が示されているということの意味を語っています。日本で初めて雪の結晶の研究をしたのは江戸時代、古河藩主土井利位で「雪華図説」としてまとめられています。

生活診断室

シリーズ④

雪は天からの手紙

郡山女子大学

准教授 山形 敏明

雪は天からの手紙。このフレーズが目に飛び込んできた。「子どもたちにとって希望なき世界は入る余地がない」(一三七頁)とある。おとなに希望を与える子どもこそが、おとなからの希望を必要とするのである。

ある日、授業の準備をしていると、「教育のトーン」の一文が目についた。込められた「子どもたちにとって希望なき世界は入る余地がない」(一三七頁)とある。おとなに希望を与える子どもこそが、おとなからの希望を必要とするのである。

一度大雪となると様相は一変し、雪は各地に甚大な被害をもたらします。豪雪時の雪害についてはニュース等でも大きく取り上げられ、よく知られているのですが、実は豪雪年に限らず、雪国では毎年人身雪害、建物雪害で多数の死傷者を出しているのです。このような恒常的な被害発生については、認識が薄いのが実状です。しかしこれらの被害も、住宅の設計段階や都市計画段階で検討することにより随分と軽減することができ、近年では国家的プロジェクトで対策が検討されています。一方、雪をエネルギーに変える研究も行われていて、エコの面からも期待されています。雪と上手につきあっていく知恵が必要とされているのです。まもなくクリスマス。雪が人々から親しみを呼んで迎えられる、そんなホワイトクリスマスになることを願っています。

言葉では簡単だが、自分自身の生きかたを絶えず見つめるのは難しい。思い出すことを躊躇したくなる過去の経験があるかもしれない。けれどもこの一文は、生き方の善し悪しというよりもむしろ、「生き方を問う姿」が模範になることを示唆すると思われる。つまり、今の自身の努力でコントロールし得る要因でもある。この点は幸いである。

著者のマーンは現象学的教育学の研究者である。この本の巻末には、ヘルバルトに連なる「教育的タクト」の解説もある。たいへん参考になる。おとなの代表として子どもに立つ親と教師のための良書である。

NEWS 学園ニュース

六年ぶり三度目の優勝
新人戦県大会を制す

— 附属高校剣道部 —

十一月七八日の両日、郡山総合体育館で平成二十一年度福島県高等学校新人体育大会剣道競技が開催され、本校剣道部が六年来、三度目の優勝を飾った。

日頃の練習の成果を発揮し順調に勝ち進み、準決勝ではインターハイ出場の磐城高校を、決勝戦では文武両道指定校として強化されている若松商業高校を大将戦で破った。

団体戦での活躍が評価されたスポーツ健康系コース二年の高橋和代さんが優秀選手に選ばれ、団体に向けての強化選手となった。



3度目の優勝を飾った剣道部

団体で
二年連続新人戦優勝

— 附属高校弓道部 —

あいづ総合体育館弓道場で十一月六日から開かれた平成二十一年度福島県高等学校新人体育大会弓道競技に出場した本校弓道部が二年連続団体戦で優勝した。

決勝リーグ最終戦で福島東高校と対決し、二十射中、十七対十六の一的中差でみごと全勝優勝した。



全勝で2連覇の弓道部

選手たちは責任ある「正しい気道の剣道」を展開し、心を一つにして戦った成果が表れたと喜んでいました。

短大音楽科が定期演奏会
学習の成果を披露

短期大学部音楽科の第四十回定期演奏会が十一月十三日、郡山市民文化センターで開かれた。

英国の作曲家ブリテンの「キャロルの祭典」から選ばれた六曲の合唱から始まり、学生たちが専攻するピアノやクラリネット、声楽、管弦楽などの学習の成果を披露した。最後には

附属高校生も交えた大編成の郡山開成学園オーケストラがオペラ「カルメン」第一組曲を演奏し、多くの観客を魅了した。



聴衆を魅了した定期演奏会

毛さん高飛込と三浦飛板飛込
二種目で三位に

大学人間生活学科三年の毛文輝さんは、九月に開催された第八十五回日本学生選手権水泳飛込競技大会の三浦飛板飛込と高飛込で三位に入賞した。また、同四年の三浦薫さんもそれぞれ十一位となり、団体総合では四位と頑張った。

秋田市で開催された平成二十一年度全日本合唱コンクール東北大会に出場した開成の杜女声合唱団は、大学の部で銅賞を獲得した。

全日本合唱コンクール東北大会
開成の杜女声合唱団 銅賞

九月に山形市で行われた東北私立高等学校バレーボール選手権大会で、本校バレーボール部は決勝トーナメントに勝ち上がり、町田市で行われる全国大会への出場権を獲得した。全校の強豪校を倒すと選手たちは猛練習に励んでいる。

私立高等学校バレーボール
全国大会へ

本校友会と本校生徒会は助け合い運動の一環として十月から学内で募金活動を行い、二十二万三千七百四十四円の浄財を得、十一月二十日、学友会会長秋山恵理さん、生徒会長長渡辺萌さん、二人が県共同募金会郡山支会へ委託した。

「赤い羽根募金」
— 学友会生徒会が協力 —

本校友会と本校生徒会は助け合い運動の一環として十月から学内で募金活動を行い、二十二万三千七百四十四円の浄財を得、十一月二十日、学友会会長秋山恵理さん、生徒会長長渡辺萌さん、二人が県共同募金会郡山支会へ委託した。



秋山恵理さん(左)と渡辺萌さん(右)

白石さゆりさん坂本麗美さんが
牛製品利用料理コンクールで入賞

第三十回牛乳製品利用料理コンクール福島県大会で附属高校の白石さゆりさんと坂本麗美さんが入賞した。

コンクールには四百五十七名の応募があり、書類審査で選ばれた九人が調理を実演した。おいしさや獨創性、普及性などを審査した。

高校生読書体験記コンクール
秋山綾乃さん奨励賞

第二十九回全国高校生読書体験記コンクール県選考会が十月十五日、福島市で開催された。県内十一校の生徒から三千五百四十三点の応募があった。その結果、本校三年の秋山綾乃さんの「可能性への挑戦」が奨励賞に選ばれた。

渡辺萌さんに委嘱状
二十三年本県開催全国高総文祭

平成二十三年に福島県で初めて開かれる全国高校総合文化祭第一回生徒実行委員会が附属高校の渡辺萌さんに第一期の実行委員として委嘱状が手渡された。任期は来年の五月まで。

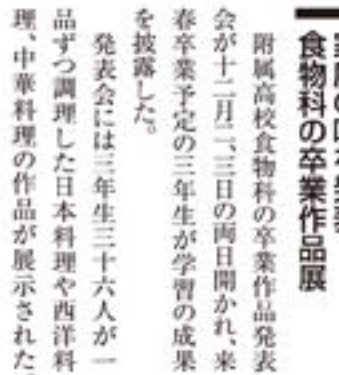
東北大会で銀賞
マーチングバンド部

宮城県利府町で開催された第三十八回マーチングバンド・パトントワーリング東北大会で附属高校マーチングバンド部は銀賞を受賞した。

家庭の味を発表
食料品の卒業作品展

附属高校食料品の卒業作品展発表会が十二月二、三日の両日間、来春卒業予定の三年生が学習の成果を披露した。

発表会には三年生三十六人が一品ずつ調理した日本料理や西洋料理、中華料理の作品が展示された。



ほかに「我が家の伝承料理」を統一テーマに、生徒それぞれが「家庭の味」を発表した。来場者には「豚汁」を振る舞うなど多彩なメニューでもてなし、訪れた保護者らは生徒たちの工夫を凝らした料理の数々に熱心に見入っていた。



「我が家の伝承料理」に見入る保護者たち

「リサイクルともしたない」
キャンペーンでエコ訴える

— 短大幼児教育学科 —
郡山主催によるゴミゼロキャンペーン「リサイクルを考えるステーション」

先輩を訪ねて

五歳時に須賀川市の子どもの対象にしたイラスト展で金賞を受賞するなど幼い頃から画才を発揮していた渡辺さん。

附属高校美術科で油絵を始め、短大生活芸術科に進み、二十歳のとき郡山市総合美術展で学生では初の市長賞を受賞。

卒業後、演劇にも興味があった渡辺さんは上京して劇団に入り芝居にチャレンジするも、絵への思いが強く五年前に帰郷。

現在、母親の佳子さんが古民家を改装して始めた須賀川市のギャラリー

「我が家の伝承料理」に見入る保護者たち

「我が家の伝承料理」に見入る保護者たち

は十月二十四日、イトーヨーカドー郡山店で開催され、短大幼児教育学科の学生がボランティアとして参加。ハンドベル演奏や幼児体操、人形劇、オペレッタなどを通して資源のリサイクルや「タバコのポイ捨て防止」やゴミの分別方法などを訴えた。



キャンペーンを盛り上げる幼児教育学科の学生たち

新任教師のご紹介

藤原 建樹 教授
札幌医科大学卒業。独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター名誉院長。
所属 食物栄養学科

「茶論「月夜田」を手伝いながら、画業に専念しています。」

「絵を描いているときが一番充実しています。そして絵を通じてアーティストなど様々な方々と出会えたことが私の大きな財産です。人に恵まれたことに感謝しています。」

「パワーにあふれている」「躍動感がある」「勇気づけられる」など、観る人に強いイメージを与える渡辺さんの作品の数々。

学生時代は、休みの日も学校で絵を描いていて、制服はいつも絵の具だらけだったそうです。

「在校生の皆さんも、貴重な一日一日を大事に過ごしていただきたいと思います。」

いまは、北鎌倉ウィッグギャラリーで行われる絵画展の準備で大忙しの渡辺さん。大好きなことに取り組んでいる落ち着いた穏やかな表情が印象に残りました。

いまは、北鎌倉ウィッグギャラリーで行われる絵画展の準備で大忙しの渡辺さん。大好きなことに取り組んでいる落ち着いた穏やかな表情が印象に残りました。

第百六十七回芸術鑑賞講座

虫の目の世界写真展

第百六十七回芸術鑑賞講座として、福島民友新聞社の報道カメラマン矢内靖史氏が撮影した「虫の目の世界」写真展が九月二十九日から六日間、建学記念講堂で開催された。

今回の写真は虫の目線で見た福島県自然がテーマで、通称「虫の目レンズ」といわれる、小さい被写体を大きく撮影できる特殊なレンズで撮影されたもの。葉の花で蜜や花粉を集めるミツバチやかぶと虫、クワガタ、ヤマガタなど九十点が展示された。

この写真によつて、足元にも多くの命が息づいていることに気がつくきっかけになればと矢内氏は話した。また、写真展終了後、十二点を附属幼稚園に寄贈、園児に喜ばれた。



小さな生き物の写真に見入る来場者ら

附属青春 Story 2009

ビッグアート

よく学び、よく伸びよう

もみじ会恒例となった本校のビッグアート。三学年全生徒と先生方のご協力をいただき創り上げた「生命の樹」。

私たち生徒が花や葉となり、先生方は地下の根となつて私たちを支えてくださっている。生きることの喜び、学べることの幸せ、みんなの力が合はさつて私たちは成長することができると。三学年全員の心の声がメッセージとなつて書かれている。自分の存在は手形で表現した。

ビッグアートが完成したとき、みんなが力を合わせれば、私たちにできないことはないと思える瞬間だった。(もみじ会実行委員長 副委員長 齊藤 葉津貴)



3年生全員で創り上げたビッグアート

第百六十八回芸術鑑賞講座

くるみ割り人形の美しさに酔う

去る十月二十七日と二十八日の両日、本年度第三回目の芸術鑑賞講座としてロシア国立サンクトペテルブルクアカデミーバレエ団による「くるみ割り人形」公演が行われた。

ロシアの作曲家、チャイコフスキーによつて一九八二年に作曲され、「白鳥の湖」「眠れる森の美女」とともにチャイコフスキーの三大バレエ音楽と呼ばれているクリスマスシーズンに必ず上演される演目の一つ。学生・生徒の大半は、本格的なバレエの舞台を鑑賞するのは初めてとあつて、館内は開幕前から期待と熱気に包まれていた。クララがクリスマスの夜みた夢が見事に演技され、学生たちは熱心に見入っていた。



踊りや楽器演奏にカーテンコールが繰り返された

平成二十一年度第二回教養講座

「いきで素敵な江戸しぐさ」

講師 江戸しぐさ理事長

越川 禮子氏

平成二十一年度第二回教養講座が十月十五日開催された。

講師はNPO法人江戸しぐさ理事長越川禮子氏。百万人を越す城下町江戸。その約八〇％の人々が何かしら商売を営んでいた。この時代の商人の指導者たちが「どうしたら争いのない平和な生活ができるか」を考え、生み出された心構えが「江戸しぐさ」として説明した。

「江戸しぐさ」はこのように庶民の中から自然に生まれたものではなく、江戸時代の商人の一部の人が「繁盛しぐさ」「商人しぐさ」と呼んで、率



思いやりと心と生き方を教く「江戸しぐさ」を講演する越川理事長

木もれ陽

本学園の研究教育の成果の数々は本紙上にもその彩を見せている。その成果が現れるまでには相当の努力を積み重ねたはずである。しかし、その努力は他の人の目には容易に見えない。

宮沢賢治に「ゼロ弾きのゴースト」という物語がある。ゴーストはまるで下手な奏者のため、指揮者に怒鳴ら



スタンド



窓



唐草

れてばかりいる。一人家に帰ってきてもどうして上手く弾けないのかと苛立つ。そんな彼のとろろに小動物たちが訪ねてきては、からかったりしながら上達のコツをそれとなく伝える。重要な点は、動物たちと過ごした日から本番の演奏会の日まで数日間があり、この間、彼がどれ程懸命に一人で努力したことかということである。作者はそれを一切書かない。努力とはこのように他人の目には触れ得ない自分だけのものなのであろう。(均)

本学所蔵 紙上美術展 60

佐藤潤四郎の世界

明治四十年、郡山市の開業医の家に生まれる。旧制安積中学を経て、東京美術学校(現東京芸術大学)を卒業。

初めは金工家としてデビューする。その後、わが国のクリスタル工芸の第一人者各務三三と出会い、ガラス工芸に転向。以後、各務や岩田七に続く昭和を代表する作家として国内外で活躍した。

ガラス工芸品のほか絵画も数多く残っている。筆の流れる素朴で温かい。今回紹介する本学所蔵の水彩画は、氏の他分野の作品で、それぞれ味わい深い趣がある。